

沖縄県うるま市に新たな研究施設 「アルビオン沖縄研究所」を開設

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林章一 代表取締役社長)は、沖縄由来の植物や海洋資源の化粧品原料化を目指し、2021年4月19日に5番目の研究施設として「アルビオン沖縄研究所」を開設いたしましたのでお知らせいたします。

アルビオンではこれまで、2010年に開所したアルビオン白神研究所をはじめ4か所に研究施設を設け、化粧品原料の研究・開発、植物栽培などを行ってきました。

このたび、さらなる化粧品原料開発のため、独自の植物や海洋資源の宝庫である沖縄に新たに研究所を開所いたしました。

■開設の経緯

アルビオンでは、沖縄県渡名喜(となき)島に自生している野生のブドウ「リュウキュウガネブ」の葉エキス※を開発、製品「エクラフチュール」(2013年発売)への配合を機に沖縄素材と接点を持つようになりました。

その後、沖縄の企業誘致促進プログラムへ参加、県内の研究機関と連携した原料開発体制を確立し、沖縄研究所開設に至りました。

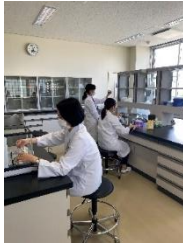
(※化粧品表示名称:エビヅル葉エキス)

■研究の内容・目的

沖縄由来の植物や海洋資源の新規化粧品原料開発を行います。

同じ素材から作られた化粧品原料でも製法によって得られる成分や機能が異なるため、豊富なデータベースや分析機器を用いて狙った機能をもつ原料を作り出したいと考えています。

今後の展望としては、2年後に沖縄の魅力ある希少性や機能性の高い植物、海洋資源を原料化し、3年後に製品へ配合することを目標にしています。



■研究所概要

名称:アルビオン沖縄研究所

所在地:沖縄県うるま市字州崎12-75

沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター内 研究棟205号室



沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター

【資料】

〈アルビオンの研究体制〉

アルビオンが目指す「価値ある高級化粧品づくり」を支えているのが、確かな研究開発・技術力です。最新の皮膚科学に基づく研究開発、安全性を徹底検証する各種試験や肌への効果測定などを行い、お客様に肌で実感しご満足いただける商品を生み出すことに力を注いでいます。それぞれの施設で、その特性を活かした研究を推進することにより、お客様の期待を超える新しい化粧品づくりに挑戦しています。

○アルビオン東日本橋研究所(東京都中央区東日本橋／2013年開設)

銀座本社から20分という東京の中心地に立地。都市分散型研究拠点の象徴として世界中の情報が集中する都心部で化粧品を研究開発するという他に類を見ない取り組みで、製品開発、薬理研究全般を行っています。

○アルビオン白神研究所(秋田県藤里町／2010年開設)

世界自然遺産の白神山地の麓、秋田県藤里町の協力を得て、研究所とパイロットファームを設立。美容効果が期待できる有用植物の栽培、研究を行っています。

○スリランカ伝統植物研究所(スリランカ／2014年開設)

固有植物の宝庫であり、アーユルヴェーダなど伝統医療が盛んなスリランカに着目。東京農業大学、佐賀大学、現地のワヤンバ大学と連携し、実用化されていない植物の分析や新規成分の開拓などを行い、新たな化粧品の開発を目指しています。

○横浜研究室(神奈川県横浜市西区／2020年開設)

商業施設「ニューマン横浜」(横浜市)に入る店舗「アルビオン フィロソフィ」内に位置するオープンラボ。原料や処方設計の検討など、主に基礎研究を行うほか、アルビオンのものづくりに関するお客様参加型のワークショップや肌分析も実施。研究員が直接お客様の声に触れることで、消費者ニーズを研究活動に迅速に反映することを目指しています。